



★ 屋上菜園を見た様子

歩きながら農業をしている人を見たり、野菜がどのように育つのかを見て楽しむ。もちろん一緒に農業活動を行うこともでき、収穫体験なども開催する。農業を通して地域住民の活動の一つとして利用することができる。



上から見た様子

一つの床ごとにレベルを変え、部屋毎にテーマを決めることで、居場所の種類を増やし、どのように過ごすのかその人の気分によって決めることができる。

長く使ってもらう建物にするために、現在農園の上には屋根はつけていないが屋根を増やすことや壁を作ることでもできる。将来的には別の利用方法も検討でき、時代の変化に伴いながら長く使うことができる。



★ 空間を繋ぐ場所はいろんな人が通る。ベンチに腰掛け、みんなの広場を眺めるとにぎやかな様子が見えると自然と居心地よく感じる居場所

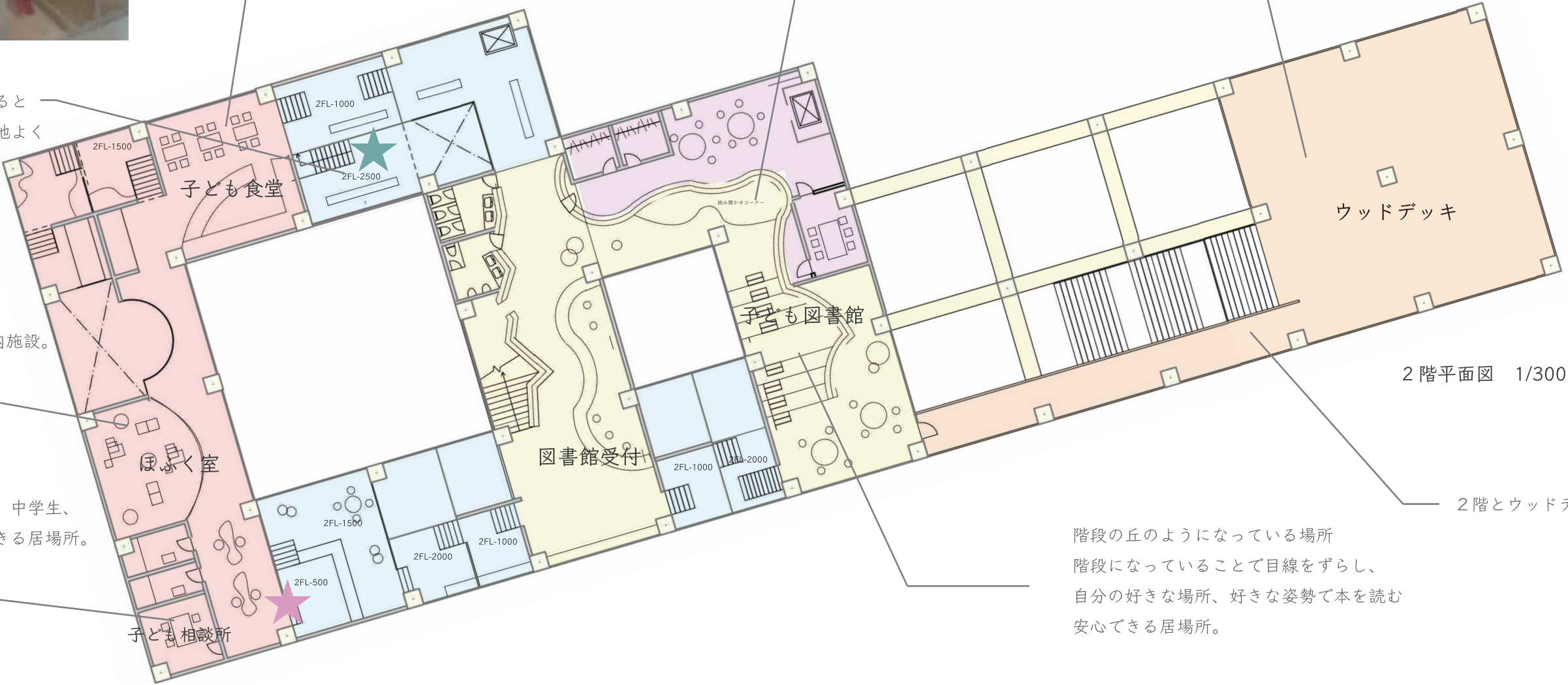
小学生以下の子どもに向けた室内施設。

子育て中の大人はもちろん、小学生、中学生、高校生誰かに言えない悩みを相談できる居場所。

平日限定の食堂。働くお母さんお父さんの味方となる。食材は屋上農園で採れた野菜を使用。また子ども食堂ではあるが高齢者や大人も利用可能。

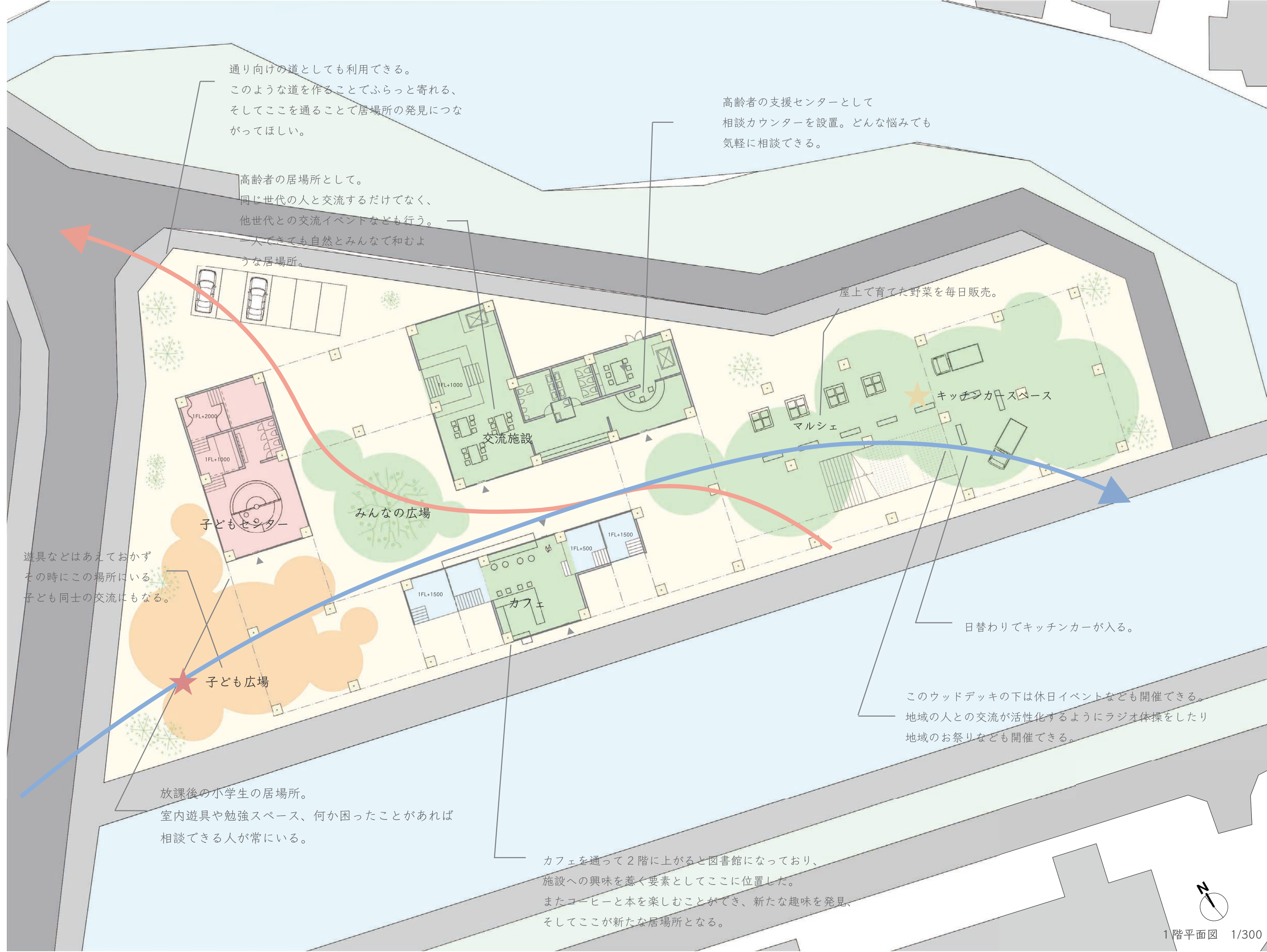
本と子どもたちをつなげる、子ども同士のコミュニティーとなる居場所。

ウッドデッキの上で雨の日は体動かすこともできる。またキッチンカーで買ったものを食べることもできる。みんなで過ごす居場所。

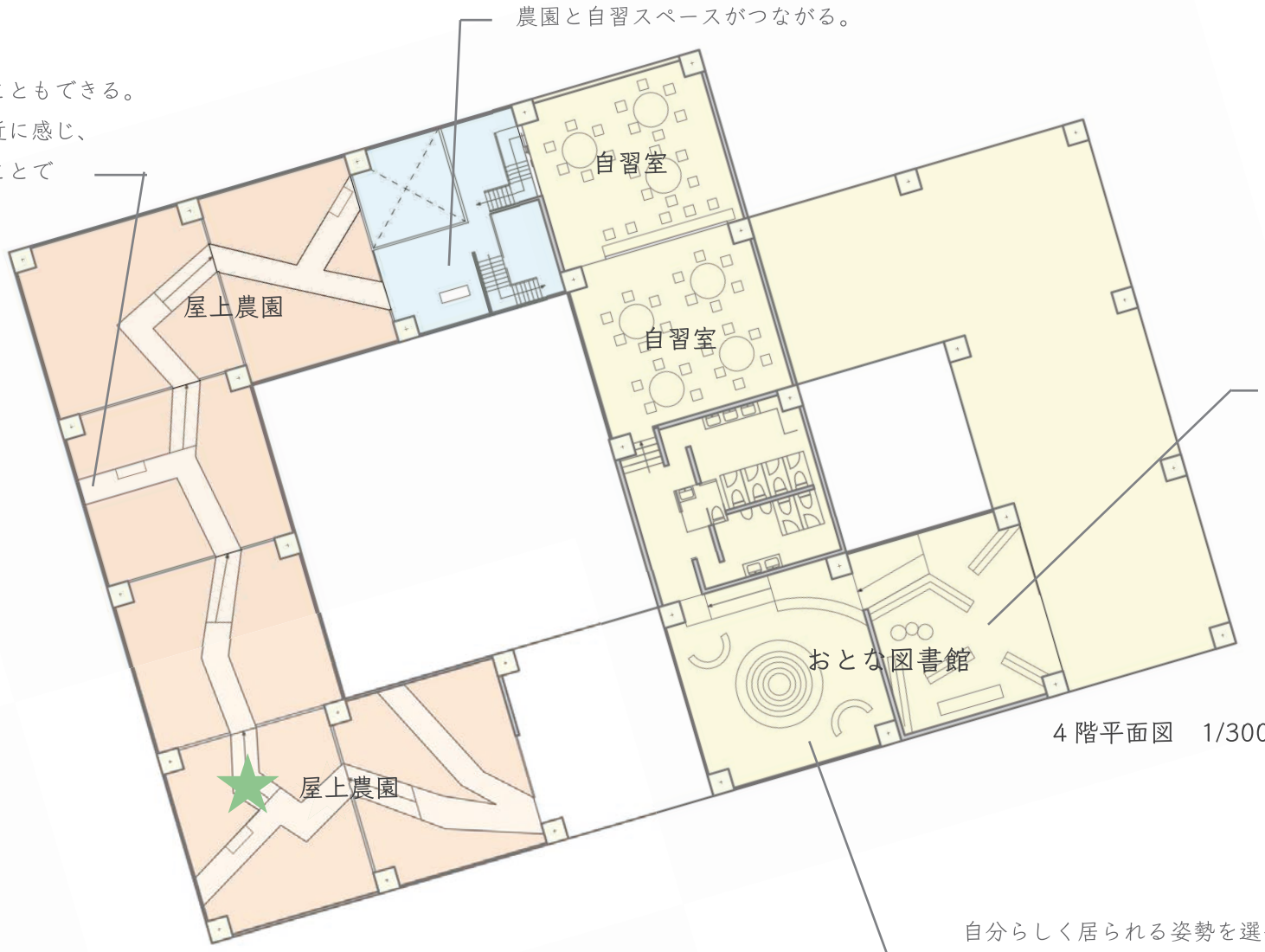


2階平面図 1/300

階段の丘のようにになっている場所
階段になっていることで視線をずらし、自分の好きな場所、好きな姿勢で本を読む安心できる居場所。



1階平面図 1/300



4階平面図 1/300

農園を歩くこと、農園の中を座ることもできる。食べ物が作られているところを間近に感じ、成長過程を楽しむ、それを味わうことで食に対する関心を高める。

農園と自習スペースがつながる。

目線の先には本棚がなく、自分に集中できる。安心して過ごせる居場所。

自分らしく居られる姿勢を選べる。座っても、寝ても、自然と自分が出せる居場所。本を読んでもいいし、本を読まずに休憩してもいい。



★ 図書館から見た様子

本棚越しに奥の空間が見えるのと、外にも空間が連続する様子が見える。床のレベル差をつけることで視線が異なる高さとなり、同じ空間にいるようでも空間が区切られ、どんな空間も自分の居心地の良さを見つけることができる。



★ ほふく室から見た様子

段差を使うことで視線の高さは違うが、ガラスを使うことで人が動く気配を感じられる。壁ではなく高さの差をだしゆったりと空間を区切る。



★ キッチンカースペースから見た様子

サイクリングする人、散歩する人が気軽にふらっと寄って休憩でき、上は雨が降っても体を動かせる場所として、地域のお祭りや集会にも利用できることから常にいろんな形に変わる空間とした。



★ 子どもの広場から見た様子

人から見えやすい場所で活動し、どんな使い方もできる広場を子どもたち一人一人がのびのびと活動する場所。子どもの賑やかさを感じながら、建物の内部へと進んでいくことができる。また通り抜けの道としても利用でき、ここを知ってもらう一つのきっかけのような場所。